令和５年度　浜松市国語科研究部　第２回研修会　ブロック別研修報告

３ブロック（５、８部会）

１　グループ別研修「１学期の実践交流」

第１回市教研での話合いをもとに行った「学びの調整」に関わる実践報告を行った。各自で持ち寄った資料や、午前中の坂口教授からいただいた講話をもとに、成果や課題についてまとめた。

２　グループ別研修「第３回市教研　授業研究について」

浜北北部中学校　杉本美奈　教諭（中２）

授業案をもとに、本年度の研究テーマや重点事項について触れながら話合いが行われた。①討論の方法、②今回の授業における「学びの調整」の場とは、③発表を活発にさせる方法についてという明確な検討事項が挙がっていたため、話合いは円滑かつ活発に行われた。本日の検討内容を参考に、第３回研修会では、授業を参観または視聴し、グループ協議を行う予定である。

～グループ協議での意見の一部について～

・二つを同時に行うよりも、二回に分けて、さらにテーマを変えて行ったほうが、話合いはより活発になるのではないか。

・話合い当日よりもその前段階で行う意見の検討のほうが、学びの調整を見取りやすいのではないか。

３　指導講評　光明小学校長　中野　主税　先生

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

４ブロック（６、７部会）

１　グループ別研修「１学期の実践交流」

第１回で分かれた学年別グループで、１学期の実践について話し合い、本年度の研究テーマ及び重点について得られた成果や課題をまとめた。

２　グループ別研修「第３回市教研　授業研究について」

舞阪中　荒川路子先生（中２）

授業案をもとに、本年度の研究テーマ及び重点を視点とし、単元目標を達成するために有効と考えられる手立てや、留意点、本単元実施までにつけておきたい力や実践等について、グループに分かれて検討した。本日の検討内容を参考に、第３回研修会では、授業を参観または視聴し、グループ協議を行う予定である。

～グループ協議での意見の一部～

・目標と指導と評価の一体化が必要である。

・目標では「内容の解釈」だが、群読の工夫まで求めるのか。

・群読を行うのであれば、録画等で客観的な振り返りを行えるような環境設定や、評価の軸＝群読で目指す姿を生徒たちが把握し、自分の課題や変化に気付けるようなものを用意する必要がある。

３　指導講評　都田小学校長　　松下　欣美先生

学習の振り返りを積み重ねていくことで、その価値に気付くことができる。課題だけでなく、できたこと、学んだこと、次に生かせそうなことなど、プラス面への視点設定をすることが必要。また、価値を実感できる学びのデザインをすることが大切。切実感や「やってみたい」と思えることが、学びの調整や粘り強さを引き出す源となる。